



攝津電機工業株式会社

2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)



作成日： 2024年4月17日

目 次

項 目	ページ
ごあいさつ	2
環境経営方針	2
組織の概要	3
事業内容の紹介	3
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	4
主な環境負荷の実績	5
環境経営目標及びその実績	5
環境経営計画の取組結果とその評価	6～8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
環境活動の紹介	10



□ごあいさつ

攝津電機工業株式会社は、電機設備分野で人と技術の調和をはかり、「お客様に価値ある製品を提供する」ことにより社会に貢献する会社です。社会の公器たる企業においては、社会的な存続価値がなければなりません。

我社は工場自動化システムによる生産性向上の領域と受変電設備・電気設備工事等の社会インフラ関連の領域にてこれからも社会に貢献してまいります。

また、社員一人一人が仕事を通じて自らの能力と人間性を向上させることにより、企業の持続的な発展が維持出来ると確信しております。

お客様に価値ある製品の提供とプロフェッショナルな社員の育成に全力で取り組むことにより、存在感のある企業としてお客様を初め関係会社様とともに成長し続けられるよう努めてまいります。

環境経営方針



<環境経営理念>

当社は、「顧客に価値あるものを提供する」ことにより社会に貢献し、企業として持続的に発展することを目的とする。

当社の事業活動である配電盤・制御盤の設計製作および電気工事事業において、地域ならびに地球環境に与える影響を常に考慮し、積極的に環境経営に取り組み、環境負荷の継続的な削減に取り組むことを、当社の使命とする。

この使命を果たすために、当社は以下の行動指針に従って環境改善活動を行う。

<環境保全への行動指針>

1. 事業活動の全領域において経営目標に適合し、環境に配慮した省資源・省エネルギーを推進する。
2. 環境関連における法律、規制、規程および顧客要求を順守する。
3. 社員一人ひとりが自己啓発し、環境保全行動を実施する。
4. 環境改善目標を定め、環境負荷の低減を継続的に取り組み、活動結果を公表する。
 - ① CO2排出量削減
 - ② エネルギー使用量低減
 - ③ 廃棄物排出量削減
 - ④ 総排水量の削減
 - ⑤ グリーン購入の推進
 - ⑥ 製品・サービスへの環境配慮
 - ⑦ コピー紙の削減
 - ⑧ 化学物質の適正管理

制定日：2016年4月1日

改定日：2018年7月2日

代表取締役社長 賀内 一彦

□組織の概要

(1) 名称及び代表者名

攝津電機工業株式会社
代表取締役社長 賀内 一彦

(2) 所在地

本 社 大阪府箕面市稲6丁目2番1号
大阪支店 大阪府大阪市西区江戸堀1丁目5番16号
神戸支店 兵庫県神戸市中央区八幡通3丁目2番5号
川西工場 兵庫県川西市石道久保ノ上166番地

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 常務取締役 阪田 圭司 TEL：06-6443-4977
担当者 総務部 宇賀 正樹 TEL：072-727-7151

(4) 事業内容

配電盤・制御盤の設計・製造管理、電気機器の据え付け工事管理

(5) 事業の規模

売上高 15億5千万円

	本 社	大阪支店	神戸支店	川西工場	合計
従業員 名	49 名	3 名	1 名	3 名	56名
延べ床面積 m ²	1880.56 m ²	66.03 m ²	44.21 m ²	445 m ²	2,436m ²

(6) 事業年度

4 月 1 日 ~ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

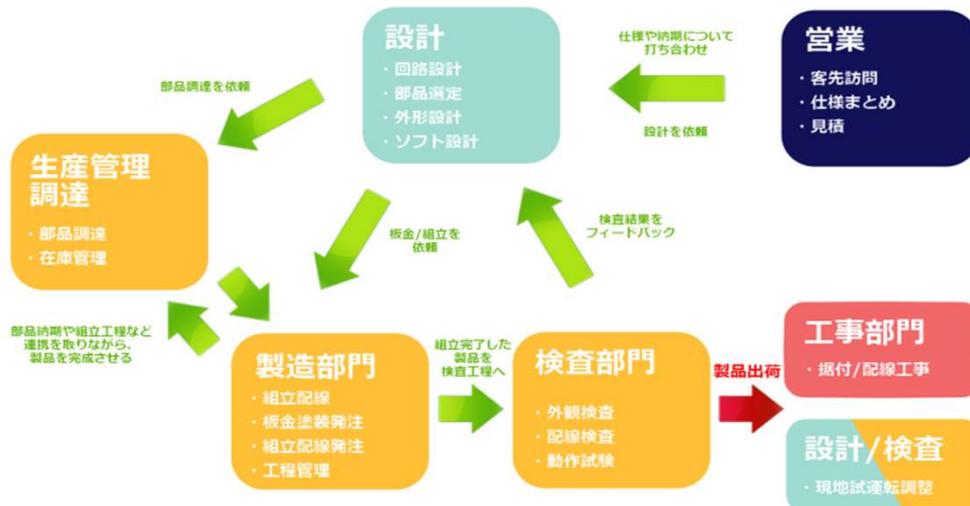
登録組織名： 攝津電機工業株式会社
対象事業所： 本 社
大阪支店
神戸支店
川西工場

対 象 外： なし

活 動： 配電盤・制御盤の設計・製造管理、電気機器の据え付け工事管理

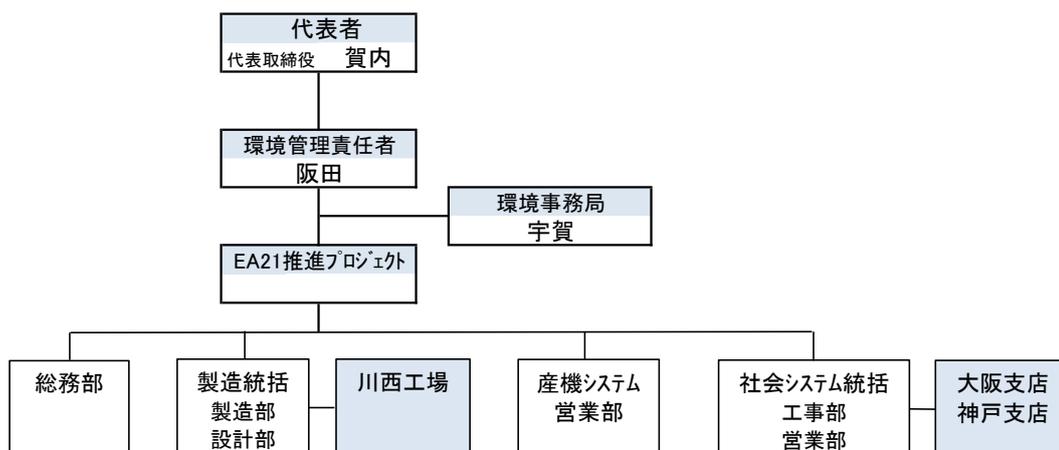
□事業内容の紹介

電気設備、計装設備、受配電盤・制御盤の設計製作等、あらゆる電気設備に関わることに対応できるように、優秀なスタッフを置き、業務に励んでおります。
省力化や効率化のサポート役として、先進の技術で工場の生産設備、各種のプラントへ、制御の技術を軸にお客様のニーズに従って、ソフト及びハードの設計から製作まで一貫して行います。
ライフラインに密着した上下水道、道路、河川、ダム設備などのインフラを、信頼される技術で制御盤の設計製造から据え付け電気工事までトータルサポートで、製品、技術を提供させていただいております。



□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2023年4月6日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・EA21推進プロジェクトの事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)
EA21推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績



項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	118,695	110,358	115,662
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	3,053	3,011	3,674
産業廃棄物排出量	kg	5,269	9,302	4,620
水使用量	m ³	462	480	521

※二酸化炭素排出係数 0.351 kg-CO₂/kWh 電力会社の調整後の係数

※二酸化炭素総排出量には、灯油及びLPGによる排出量を含む

□環境経営目標及びその実績



項目	年度	基準値 (基準年)	2023年		評価	2024年	2025年
			(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 原単位(売上高による)	kg-CO ₂	40,648	39,226	41,191	×	39,022	38,819
	基準年度比	2020年	96.5%	101.3%		96.0%	95.5%
	kWh/千円	0.075	0.073	0.076	×	0.072	0.072
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	66,943	65,270	70,649	×	64,935	64,600
	基準年度比	2020年	97.5%	105.5%		97.0%	96.5%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	107,592	104,496	111,840	×	103,958	103,420
一般廃棄物の削減	kg	3,254	3,172	2,325	○	3,156	3,140
	基準年度比	2020年	97.5%	71.4%		97.0%	96.5%
産業廃棄物の削減	kg	9,100	8,873	4,620	○	8,827	8,782
	基準年度比	2020年	97.5%	50.8%		97.0%	96.5%
水道水の削減	m ³	482	470	521	×	468	465
	基準年度比	2020年	97.5%	108.1%		97.0%	96.5%
コピー用紙の削減	枚	452,500	427,613	366,000	○	425,350	423,088
	基準年度比	2020年	94.5%	80.9%		94.0%	93.5%
製品・サービスへの環境配慮	件	107	123	163	○	128	134
	基準年度比	2020年	115.0%	152.3%		120.0%	125.0%

※ 産業廃棄物は埋立処分量のみを対象としています

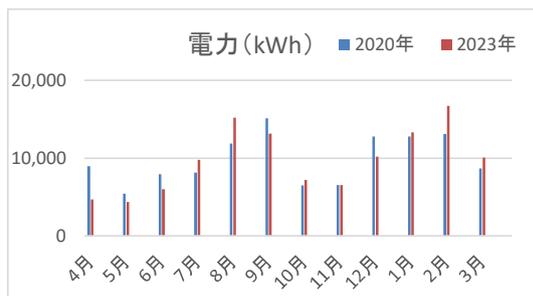
□環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標：○達成 ×未達成

活動：◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

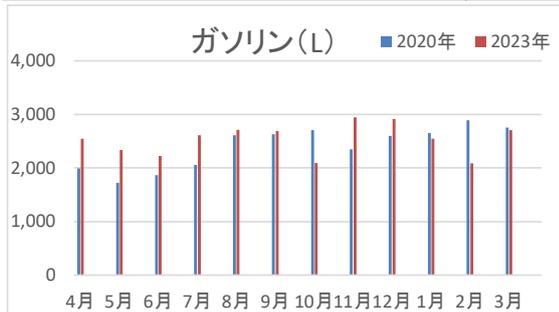


電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	気象庁から、夏から初秋にかけて異常気象であったとの発表があったとおり猛暑日が続いたため、健康面から体感温度計を設置し体感温度での室内温度設定に変更したこともあり、目標を達成できない時期もあったが、定期的に確認、挽回策を検討することで一年をとおして上振れを抑制できた。次年度も定期的に見直すことで目標の達成を図りたい。
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃（体感））	○	
・不要照明の消灯	○	



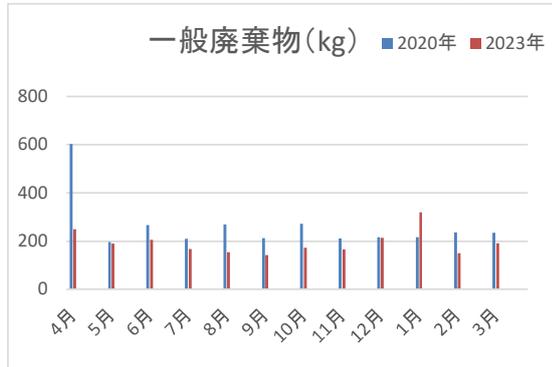
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	8,963	5,431	7,955	8,160	11,877	15,130	6,497	6,547	12,800	12,800	13,106	8,666
2023年	4,687	4,375	6,015	9,757	15,239	13,176	7,217	6,550	10,202	13,308	16,752	10,077

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	大型物件の完成に伴い、社用車の使用頻度が増加したことにより目標達成に至らなかった。また、車両更新時に検討車が納期の関係で導入を見送らざるをえず、間に合わせの導入が起こった。現場では可能な限り乗り合わせての移動等に気を掛けつつ、エコドライブの教育等、引き続き取り組むことで来期の目標達成に備える。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートでの運搬	○	
・エコドライブの教育計画	○	
・車両更新時に低燃費車を選択	△	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	1,992	1,723	1,867	2,054	2,615	2,632	2,704	2,347	2,597	2,656	2,891	2,757
2023年	2,543	2,340	2,226	2,614	2,715	2,689	2,095	2,945	2,918	2,544	2,090	2,711

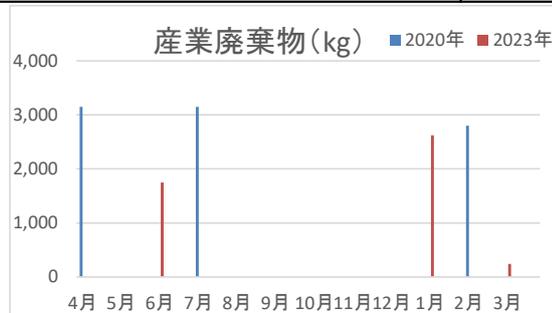
一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	分別の徹底による効果があり目標の達成に至った。次年度も引き続き目標達成に向けて分別の徹底を周知していく。
・分別の徹底	○	
・シュレッダー廃紙のリサイクル化	×	
・検図方法見直しによる印刷物の削減	△	
・梱包材の再利用	○	



・4月は異動などの組織変更に伴う増加あり

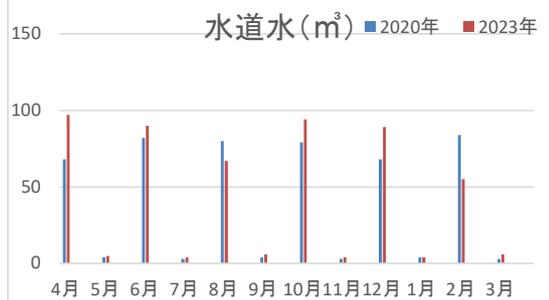
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	602	196	267	209	269	213	271	212	216	216	237	235
2023年	250	190	207	167	155	143	173	166	213	320	150	191

産業廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	建替工事に伴う産業廃棄物の排出はあったが、一年をとおしてパトロール強化を実施した結果、ルールを守られていない投棄物により早く対応でき、分別の徹底に繋がったことから目標を達成できた。次年度も引き続き活動を続ける。
・分別の徹底	○	
・梱包材の再利用（木材）	○	
・現場事務所備品のレンタル品検討	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	3,150	0	0	3,150	0	0	0	0	0	0	2,800	0
2023年	0	0	1,750	0	0	0	0	0	0	2,625	0	245

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	工場棟の立替工事が本格化し、解体作業中等の水まきなどで使用量が増加したが、節水の意識付けはできている。社内ですることを次年度でも続けて実施していく。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・定期的な上下水道使用量の確認	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2020年	68	4	82	3	80	4	79	3	68	4	84	3
2023年	97	5	90	4	67	6	94	4	89	4	55	6

グリーン購入の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	—	今期では他社の取組紹介に参席し、様々な視点からの取組を学べた。その中から当社でも検討の余地のあるバガスペーパーの導入などの諸案を実施していきたい。
・エコタイヤ（交換用）の確認	○	
・工事材料（エコケーブル）の使用推進	○	
・事務用品グリーン製品導入	○	

コピー用紙の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・プリンター用紙の購入数を把握する	○	昨年度導入した書類管理ソフトを活用し、発注書や部品表等さらにペーパーレス化を進めたことにより目標を達成できた。次年度も更なる削減率を目指す。

製品・サービスへの環境配慮	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・省エネ機器の採用	○	RoHS対応製品、エコ電線の使用等、省エネの機器、再生資源の利用を念頭に設計段階の提案を実施できている。次年度も取り組みを継続する。
・再生資源の利用	○	
・省資源設計の提案（既成BOXの利用等）	○	
・省エネ設計の提案（Ex. INV等）	○	

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）
騒音規制法（大阪府条例）	業務用空調機
フロン排出抑制法	業務用空調機
グリーン購入法	備品調達

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

□外部からの環境上の苦情・要望等

本年度において苦情等の実績はありませんでした。

□緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災発生とAED使用訓練	
■実施日： 2024/2/21	■実施場所： 箕面本社
■対象者： 箕面本社勤務従業員	
■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 消火講習 <input checked="" type="checkbox"/> AED訓練 箕面市消防本部より講師を招き、上記実施内容の講習、訓練を実施	
■評価： 良 消火器の使用法のレクチャー、使用時の注意点、及びAEDの使用法の講習は継続して実施してきており、参加者からも以前の講習を踏まえた確認の質問が多数あった。 消火器の使用上の説明では、弊社設置の蓄圧式消火器を用いての説明があり、また2024年1月から建替え工事の完了した本社事務所における火災発生を仮定した場合、排煙窓の解放にも注意を払うよう指示があった。 AEDを用いての心肺蘇生の実地訓練では、参加者全員が訓練用マネキンを用いての訓練ができた。また、コロナの蔓延を踏まえ人工呼吸の手順をなくす変更点があるとの説明があった。	
■実施状況の様子	
	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年4月16日

2023年度は、本社事務所棟建築工事及び工場棟解体工事のため工事車両洗浄及び解体に伴う水撒きにより水道使用量が大幅に増加しました。これは一時的な増加と考えます。また、大型物件の対応により電力やガソリン等の使用量が増加しています。これら問題に対し、エコアクション21メンバーは定期的なパトロールや電気自動車のデモ車による説明会等の改善活動を確実に実施していただきました。コピー用紙削減は、文書管理ソフトの活用が十分な効果を発揮した成果であります、適用範囲を拡大しさらなる改善を期待します。

2024年度は、廃棄物の分別についてさらなる社員への浸透が必要と思われるので、パトロール及び朝礼での改善指導を積極的に行ってください。

BCP討委員会・DX検討委員会と連携を図り、全社視点での環境経営を実践していきます。

- | | | | |
|-----------|--|--|---------------------------------------|
| 環境経営方針 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり | |
| 環境経営目標・計画 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり | |
| 実施体制他 | <input type="checkbox"/> 変更なし | <input checked="" type="checkbox"/> 変更あり | 2024. 4. 1より環境管理責任者変更
後任：営業部長 金子将人 |

□環境活動の紹介



カーボンニュートラルの取組

■実施日：2023/10/18 ■実施場所：川西工場及び周辺道路

■参加者：エコアクション21推進委員会メンバー 7名

■実施内容：EV自動車導入の検討
ガソリン車と比べて走行時に二酸化炭素を排出せず、また蓄電池として有事の際に活用ができる「電気自動車」を社有車として導入することを検討するにあたっての知識の向上をねらい、日産自動車販売株式会社様、株式会社関西マツダ様、西日本三菱自動車販売株式会社様ご協力のもと電気自動車の仕様等のレクチャー及び試乗を実施。

■評価：良
商用車、近場への移動に用いる軽自動車、コンパクトカーの代替になり得る電気自動車5車種の車体重量や航続距離、価格等の情報に対し、試乗を通してバッテリーの減り具合等確認できることを検証できた。各メーカー毎に操作上の特徴があるため、安全面やハンドリング、乗り心地なども比較でき、より現行社用車の代替車、使用用途に適している車種になるかの目線で能動的に参加できた。

■実施状況の様子

□攝津電機工業株式会社は、SDGsの目標達成と持続可能な社会の実現に向け、EA21の活動を通じ社会の課題解決に取り組んでいます。

SDGsとは
SDGs(エスディージーズ:Sustainable Development Goals持続可能な開発目標)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。
持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

